

保幼小中高一貫教育



守谷市の目指す保幼小中高一貫教育 【きらめきプロジェクト】

目標

確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくみ、
将来の夢に向かって努力できる児童生徒の育成
～世界で輝く人づくり～

1 一貫教育を行う背景

少子高齢化，グローバル化，情報化等による社会環境の急激な変化の中，本市の児童生徒にも，学力の格差，表現力やコミュニケーション能力の低下，いじめや不登校など，様々な課題が見られます。加えて，保育所（園）・幼稚園から小学校への入学時や小学校から中学校への進学時において，学習習慣や生活習慣，生活指導や生徒指導などの急激な変化に適応できずに，戸惑いや負担を感じている児童生徒も少なくありません。さらには，近年，つくばエクスプレスの開通に伴い人口増加の続く本市において，保護者の価値観も多様化し，人間関係が希薄になってきている現状もあります。また，小学校は中学校を，中学校は小学校を，程度の差こそあれ，時として批判的な見方をしてしまう教師側の問題もあります。

これらの課題に対応するためには，従来の義務教育6・3制の枠組みだけで捉えるのではなく，幼児期から小中学校9年間，さらには高校・社会人へと続く生活を見通した一貫教育を推進するとともに，学校・家庭・地域が協働した地域ぐるみの教育を推進していくことが必要不可欠となっています。

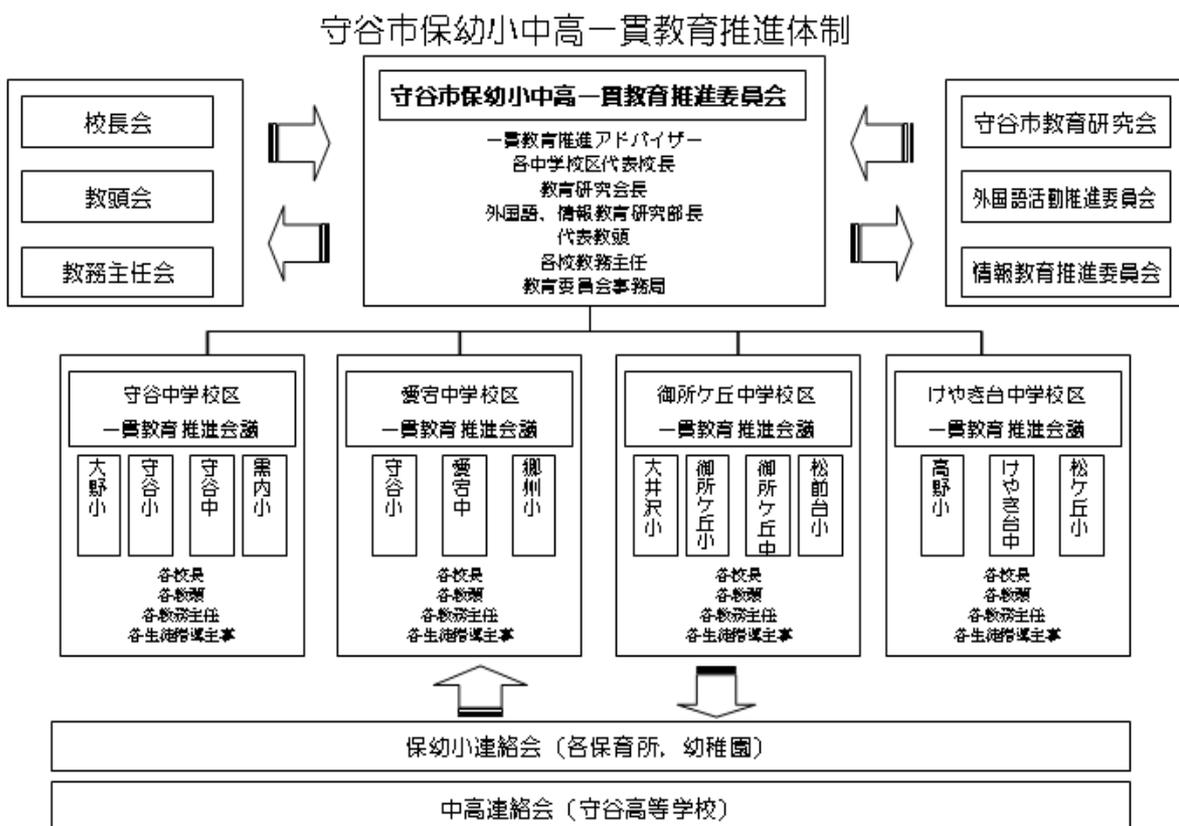
こうした現状を踏まえ，本市では，各中学校区の特色を出しながら，児童生徒に確かな学力，豊かな心，健やかな体をはぐくみ，将来国際社会で活躍できる人材育成をめざした「保幼小中高一貫教育【きらめきプロジェクト】」を実施します。

2 一貫教育の基本方針

- (1) このプロジェクトは，保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校・高等学校だけでなく，大人になってからの社会人としての自覚と責任をもった，社会に貢献できる人材育成を視野に入れて取組ます。
- (2) 各中学校区を所属感のある組織とし，それぞれの中学校区ごとに特色を出しながらカリキュラムを編成し，学校・家庭・地域と連携し，一貫教育を推進します。
- (3) 学習指導要領に基づき，義務教育9年間，高校教育3年間を見通した学習指導を展開することで，児童生徒の基礎的な知識・技能の習得，それらを活用した思考力・判断力・表現力，主体的に学習に取り組む態度の育成を図ります。
- (4) 義務教育9年間，高校教育3年間を見通した系統的・継続的な生活指導・生徒指導により，児童生徒の個性の伸長と社会的な資質や能力・態度を育成します。
- (5) 義務教育9年間を前期4年，中期3年，後期2年に区分し，発達段階に応じてそれぞれの時期で重視して指導することを明確にします。
- (6) 中期における教科担任制，小中学校間の交換授業等を推進し，中学校へのスムーズな移行，中学校の学習に対する不安の軽減を図ります。

- (7) 保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員が相互に連携・協力して児童生徒理解を深め、心身の発達段階に応じたきめ細やかな指導を充実し、学校生活への適応力の向上を図るとともに、感動体験を共有しながら豊かな心・健やかな体の育成を図ります。
- (8) 義務教育9年間、高校教育3年間を見通し、発達段階に応じたキャリア教育を推進し、将来に対する夢をもち、実現に向けて努力できる児童生徒の育成を図ります。

【一貫教育推進体制】



保幼小中高一貫教育の実践

守谷市立大井沢小学校 担当 黒羽 勉

1 はじめに

児童が，小学校から中学校へ進学するにあたり，新しい環境へ移行する段階で，いわゆる「中一ギャップ」が懸念され，小学校から中学校へ進学する際の円滑な接続が課題となっている。

守谷市の保幼小中高一貫教育（きらめきプロジェクト）の実現に向けて，御所ヶ丘中学校区では，「9年間の連続した学びを通して，未来に向かってたくましく生きる児童生徒の育成」をテーマに，一年間取り組んできた。

2 実践

（1）活動1（9年間を見通した「学習の手引き・学習のきまり」の作成と活用）

- ・ 教頭会，教務主任会を中心に，定期的に話し合いを持ち，守谷市共通の「学びのプラン」（学習スキル）を作成した。

（2）活動2（9年間を見通した「生活のきまり」の作成と活用）

- ・ 教頭会，教務主任会を中心に，定期的に話し合いを持ち，守谷市共通の「学びのプラン」（生活スキル）を作成した。

（3）活動3（事例検討会の定期的な実施）

- ・ インクルーシブ教育システム構築モデル事業検討委員会，生徒指導部会を定期的開催し，事例検討，情報交換を行った。

（4）活動4（授業体験，出前授業，吹奏楽部演奏活動等）

- ・ 御所ヶ丘中学校吹奏楽部に，小学校で演奏会を実施してもらった。中学生の本格的な演奏に，小学生は感動していた。（6月20日）
- ・ 夏休みの，4・5年生の「学びの広場サポートプラン」に，御所ヶ丘中学生の学習ボランティアに参加してもらった。児童は，お兄さん，お姉さんに教わることで，楽しく学習することができた。（7月22～26日）
- ・ 御所ヶ丘中学校区「小中合同引き渡し訓練」を行った。（9月1日）
- ・ 御所ヶ丘中学校の3名の先生方に，6年生を対象に，出前授業（社会，理科，英語）を実施していただいた。中学校の先生の授業に，6年生は緊張しながらも，充実した時間を過ごすことができた。
- ・ 立沢里山において，5年生が「3小学校合同米作り体験」を行った。他の小学校の児童との交流は，5年生にとって，貴重な経験になった。（1学期～2学期）



- 御所ヶ丘中学校の新入生説明会に、6年生全員と御所ヶ丘中学校に進学予定の保護者が参加し、学校の説明を聞いたり、部活動の見学をした。中学校の様子を、保護者と一緒に熱心に見学する姿が見られた。(1月30日)

(5) 活動5 (母校ボランティア活動, 里帰りの会等)

- 朝, 御所ヶ丘中学校の2年生に来校してもらい, 本校の6年生と一緒に, 小中合同あいさつ運動を行った。中学生の堂々としたあいさつの態度は, 小学生にとって, いいお手本になった。(11月5・8日)
- 御所ヶ丘中学校の1年生に来校してもらい, 母校ボランティアを行った。本校の1・2年生には, 算数の学習の手伝いをしてもらった。6年生には, 中学校の紹介をしてもらった。卒業した先輩たちの成長した姿を見せてもらい, 小学生にとっても, 大いに励みになったようであった。(11月20日)



3 成果

- 今年度は, 昨年度以上に, 幅広く, 多くの活動することができた。実際の交流が増えたので, お互いに活動にも慣れ, 中学生と小学生が楽しそうに活動している姿がたくさん見られるようになった。
特に, 6年生においては中学生や他の学校の小学生と交流をする中で, いくつもの新しい発見ができた。そうした体験の中から, 中学校生活に対する不安を少しずつ軽減し, 中学進学に対して希望を持たせることができたのではないかと考える。
- 6年生に限らず, 他の学年の児童にとっても, 中学生と交流することは大変有意義である。こういった活動をていねいに続けていくことが, 9年間を見通した, これからの小中一貫教育の基礎になると考える。

4 課題

- 複数の小学校が1つの中学校へ進学する御所ヶ丘中学校区において, 小中一貫教育を充実させていくためには, 小中のみならず, 小小, 小中4校の連携を図りながら, 各事業を進めていくことが重要である。しかし, 事前の話し合いが十分にできなかったところもあったので, 事前の打合せの時間を十分に確保し, 綿密な計画を立てていかなければならないと感じた。
- 義務教育9年間をひとつのスパンとして捉え, これらの諸活動をきちんと実践していきながら, 中学校や他の小学校の先生方との連携を密にし, さらに内容を充実させていきたい。
そのためには, 先生同志の交流をさらに深めていく必要がある。今年度は, 教頭, 教務主任, 生徒指導主事, 研究主任, 特別支援教育担当者が中心になって, 計画を進めたが, さらに多くの先生が関わり, お互いにアイデアを出し合うことで, 小中一貫教育の実現に努めていきたい。

保幼小中高一貫教育の実践

守谷市立大野小学校 担当 岡崎 芳文

1 はじめに

平成25年度から守谷市では、「確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくみ、将来の夢に向かって努力できる児童生徒の育成」を目標に「きらめきプロジェクト」が動き始めた。この取組は、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」、学習意欲の低下等の課題解決のための対策としても大切なものである。教師が小・中学校9年間の指導を見通した系統性のある連続したきめ細かな学習を成立させることは、子どもたちに生きる力を確実に身に付けさせるために大変重要であると考えている。

2 実践

市の保幼小中高一貫教育推進委員会を中心に、2つの視点から一貫教育に取り組んだ。視点1（小中9年間を見通した教育・指導の在り方の追求）は、各研究部会で検討を進めた。視点2（小中交流のイベントの見直し・拡大）は、中学校区ごとに内容を企画し、実践に向けての計画や体制を校内で話し合い、実践を進めてきた。

月 日	内 容
月例の教育課程研修会にて	各中学校区小中連携会議
6月 4日（火）	守谷中学校区小中連絡協議会 ・ 中学1年の元担任による中学校の授業参観
7月 3日（水）	市インタラクティブフォーラムへの参加 ・ 6年生がインタラクティブフォーラムに参加
7月22日（火） ～30日（火）5日間	学びの広場への中学生参加 ・ 4～6年生の学びの広場に先生として中学生が参加
10月29日（火）	出前授業 ・ 中学校の先生が小学6年生の算数の授業を実施
10月29日（火） 30日（水）	合同あいさつ運動 ・ 小学校において、中学生と合同のあいさつ運動を実施
11月 2日（土）	収穫祭での守谷中学校吹奏楽部の演奏 ・ 小中交流事業の一環として吹奏楽部の演奏会を実施
11月15日（金）	中一生の母校訪問 ・ 中学一年生が母校を訪問し、学習活動に参加
1月28日（火）	守谷中学校平成26年度入学予定者説明会 ・ 児童、保護者対象の説明会、部活動見学
4月～3月（通年）	美術作品の展示（半年で作品の入れ替え） ・ 守谷中学校美術部生徒の絵画作品を展示
3月20日（木）	平成26年度新入生引継事務 ・ 新入生についての事務引き継ぎ

(1) 学びの広場への中学生の参加

7月22日から7月30日までの5日間に実施した「学びの広場」に中学生の有志が参加した。4年生から6年生の5つのクラスに数人ずつ分かれて入り、丸付けや学習の補助をしてもらった。小学生が分からなくて困っている問題や間違えた問題について、優しく丁寧に教えてくれていた。それによって、小学生は楽しそうに学習に取り組むとともに、課題を速く進めることができ、内容の定着度も高まった。これからも続けていきたい取組である。



(2) 合同あいさつ運動

10月29、30日の朝、中学生が小学校に来て、合同のあいさつ運動を行った。本校の卒業生がたくさん参加してくれるとともに、登校途中の中学生も進んであいさつ運動に参加してくれた。最初は中学生のあいさつの声の大きさに驚いていた小学生だったが、次第に中学生につられて大きな声であいさつをすることができるようになった。大きな声でのあいさつはなかなか定着しない状況なので、次年度はもう少し長い期間合同で実施できるように計画したい。



(3) 吹奏楽部の演奏

収穫祭において、守谷中学校の吹奏楽部によるコンサートを行っていただいた。小学校では扱っていない様々な種類の楽器を使った演奏に触れ、その素晴らしさに感動するとともに、整然としかも活発に活動する先輩達を見て、子どもたちは中学生への憧れを募らせていた。小学生向けに曲目を選んだり、会場を巻き込んだ演出を工夫していただいたことで、聴衆（児童・保護者）はとても楽しい時間を過ごすことができた。自分でもあのような演奏をしてみたいと感じた子どもは多かった。



(4) 中一생母校訪問

11月15日に本校を卒業した中学1年生の母校訪問を実施した。1時間は小学校2年生の算数の授業に入ってもらい、1対1でかけ算九九の学習の補助をもらった。昨年度の1年生と6年生で関わりが深かったため、お互いに懐かしそうに触れ合っていた。もう1時間は6年生とグループに分かれて、中学校生活について説明をもらった。中学生は6年生の質問に丁寧に答えてくれて、中学校生活の様子がよく分かったようである。和やかな雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができた。



3 成果と今後の課題

今年度実施した様々な取り組みにより、子どもたちは中学校生活への不安を減らし、期待を膨らませることができたように感じられる。また、中学生の作品に触れたことも、子どもたちは中学校を身近なものに感じるすることができた。

今年度作成された一貫教育についての市の様々な計画やそれぞれの取組の反省を基に、情報交換を密にして次年度の取組をさらに充実させていきたい。

保 幼 小 中 高 一 貫 教 育 の 実 践

守谷市立高野小学校 担当 高橋 茂夫

1 はじめに

今年度は、守谷市が進める「保幼小中高一貫教育（きらめきプロジェクト）」の具体的・計画的実践の初年度である。この年度内に、「第1の視点」としての「小中9年間を見通した教育・指導のあり方を追究する」活動と、「第2の視点」である「小中交流のイベントの見直し、拡大」がそれぞれに実践されてきた。

ここでは、上記「第2の視点」にあたる本校とけやき台中学校との連携による諸活動・取組を振り返るとともに、特にその課題点を明確にし、次年度以降のさらなる効果的な交流実践活動につなげていきたいと考える。

2 実践

(1)今年度、新規の交流活動

①小中教員による相互授業参観・中学校教員による小学校乗り入れ授業

けやき台中学校と連絡を取り合い、お互いの計画訪問や自由参観日に合わせて、2回ずつの授業参観を行った。中学校勤務経験のない本校職員が中学校の授業を参観することができ、小学校段階でなすべきことを再認識することができた。

11月には、5学年の体育科の授業に、けやき台中学校の保健体育科教員3人をお招きし、陸上運動の具体的指導に加わっていただいた。児童も新鮮な気持ちで運動に取り組み、職員もその指導方法等に多くの示唆を得ることができた。

【次年度へ向けた課題】

- ・参観してきたことを報告したり、研修日よりで紹介したりするなど、全教員で中学校の授業の様子と連携のあり方について共有していく。
- ・体育科以外の教科の乗り入れ授業の実施を、中学校の実情に応じて検討し、積極的に進めていく。特に、美術科の専門がいらないため、図画工作の授業を優先していく。



②部活動体験

11月の土曜・日曜の休日を2日利用して、中学校の部活動体験を実施した。2日間でのべ85人の6年生が参加し、ほとんどすべての参加児童が、事後のアンケートで体験活動のよさや意義を感じ取っていることが確認できた。中学校進学における最大の関心事は部活動であることから、この交流体験活動は有意義であった。

【次年度へ向けた課題】

- ・休日はスポ少、クラブチーム等の練習と重なることもあり、2日間とも参加できない児童もいた。
- ・中学校までの往復に、徒歩で参加する児童が予想以上に多かった。できるだけ保護者送迎をお願いできるようにしていく。

③けやき台中学校美術部作品巡回展

2月1週間の期間で、けやき台中美術部の生徒

【次年度へ向けた課題】

の作品を校内昇降口に展示した。水彩画約20点の他、お面もあり、低学年児童もキャラクターのお面をたいへん興味深く見ていた。高学年児童は卒業生の名前を見つけて、その作品のできばえに感心していた。

・展示の方法に関して絵画点数等を事前に確認しておく。美術部の他、県展や市展に出品された作品なども展示して、児童の関心・意欲の高まりを図っていく。



(2) 継続して取り組んできた主な交流活動

① 小中合同あいさつ運動(各学期1回ずつ実施)

- ・これまでの実践内容に、中学生による通学安全指導を加えた。学校近くの通学路に中学生と職員が立ち、小学生へあいさつと安全歩行の呼びかけをした。次年度は、小学生も同様に通学路に立ってのあいさつ運動を考えている。

② けやき台中学校吹奏楽部出前演奏会(7月に実施)

- ・全校児童参加で、中学校吹奏楽部のすばらしい演奏を聴くことができた。最近のヒット曲の演奏に合わせて、飛び入り参加で振り付けを踊る場面では、100人近くの児童が会場前面に出てきて、大いに盛り上がった。それぞれの楽器の紹介などがあるとさらに児童の興味・関心を高めることができるだろう、という指摘を今後に生かしていきたい。



③ 「学びの広場」中学生ボランティア(7月に実施)

- ・5日間の実施期間中、4日の協力を仰いで実施した。本校の卒業生である中学1年生の生徒たちは皆、明るい表情で意欲的に参加してくれた。進度チェックという役割から、次年度以降は採点や個別支援など、中学生の協力と交流のあり方をさらに検討していきたい。

④ 母校訪問・ボランティア交流会(11月に実施)

- ・本校卒業生のけやき台中1年生が来校し、6年生全児童とともに約40分間の清掃作業を行った。小グループを編制し、同じ活動を行ったことで、自然と小中児童生徒の交流をもつことができた。後半は体育館で中学生からの学校生活の紹介等をしたが、次年度は、座談会のような形をとり、児童生徒が自然な会話を通して中学校の生活について話したり、交流したりできるような実践を考えていきたい。

3 成果と課題

けやき台中学区部会を7回もち、上記各交流活動について小中学校間の確認・調整を図ることができた。また、夏季休業中に実施した学区ごとの研修会でも、各教科等の分科会をもち、小中及び小小の情報交換ができたことは有意義であった。

今後は上記各交流活動の課題点を改善していくことと、教職員間の交流をより活性化して、特に教科指導上の連携を深めていきたいと考える。さらに、「学びのプラン」や「家庭学習のてびき」の内容を十分確認し、自校化していくとともに、児童や保護者へその活用に関して理解啓発していくことが課題となるであろう。

保幼小中高一貫教育の実践

守谷市立守谷小学校 担当 関 慶 広

1 はじめに

幼稚園から小学校，小学校から中学校へのスムーズな移行が十分に出来ていない現実があり，本校の児童のなかにも上学年への進級に漠然とした不安を抱いている児童は多く見られる。小一プロブレム・中一ギャップの解消はもとより，幼児期から小中学校9年間，さらには高校，社会人へと続く生活を見通した一貫教育を行い，確かな学力，豊かな心，健やかな体をはぐくみ，将来国際社会で活躍できる人材の育成をめざしていきます。

2 実践活動

(1) 中学生による学習ボランティア

- ア 日時 平成25年7月22日（月）～26日（金）
- イ 場所 守谷小学校（3～6年生）
- ウ 参加者 中学2～3年生ボランティア（愛宕中学校・守谷中学校）
- エ 内容 学びの広場の際，アシスタントティーチャーを依頼。



(2) 小中合同あいさつ運動

- ア 日時 平成25年10月1日（火）～2日（水）
- イ 場所 守谷小学校昇降口前
- ウ 参加者 生活委員会，愛宕中学校生徒会役員
- エ 内容 小中合同で朝のあいさつ運動を実施した。



(3) 出前演奏会

- ア 日時 平成25年10月18日（金）
- イ 場所 守谷小学校体育館
- ウ 参加者 愛宕中学校吹奏楽部
- エ 内容 吹奏楽部の演奏を本校児童が鑑賞・体験した。



(4) 中一母校訪問

- ア 日時 平成25年11月15日(金)
イ 場所 守谷小学校
ウ 参加者 愛宕中学校・守谷中学校の1年生
エ 内容 本校卒業の中学1年生と交流活動を実施した。



(5) 中学校入学説明会

- ア 日時 平成26年1月28日(火)
イ 場所 愛宕中学校・守谷中学校
ウ 参加者 6年生とその保護者
エ 内容 中学校へ出向き生活の決まりを学んだり、部活動の見学を行った。



3 成果と課題

(1) 成果

中学生が、優しく小学生を導く姿が随所に見られた。また、児童が中学生と直接ふれあうことで中学校の様子や雰囲気を感じ取ることができた。交流を深めることで、進学への不安を和らげることができている。

(2) 課題

今後は、児童・生徒の交流だけでなく職員同士の交流（出前授業など）も図り、小中一貫の視点から9年間を見通した教育課程の見直しが必要である。また、保幼小や小小なの交流を深める手立ても考えていかなければならない。

保幼小中高一貫教育の実践

守谷市立黒内小学校 担当 水ノ江健

1 はじめに

急激な社会環境の変化の中、学力の格差や表現力、コミュニケーション能力の低下、学校不適応等の様々な教育課題が生じている。特に小学校においては、保育園や幼稚園からの入学や中学校への進学時などの接続期に「小1プロブレム」「中1ギャップ」と呼ばれる問題が生じ、児童の学力向上や落ち着いた学校生活への障害となっている。今年度、これを解消する一方策として「保幼小中高一貫教育」が推進されており、本校においても次のような教育活動を行うことで一貫教育に取り組んできた。

2 実践

(1) 基礎的・基本的な学力の定着と向上を目指して

小中学校9年間の義務教育において、それぞれの学年での学習内容を確実に定着させるとともに、学習習慣や学習することへの関心・意欲を身に付けさせていくことが、一貫教育の根幹である。本校では普段の授業において「分かりやすい授業」を行うことで児童の学力の定着・向上を目指すとともに、次のような取組を行っている。

① 朝の自習の時間を活用した算数科さかのぼり学習指導

毎朝の自習を行うにあたり、月・金曜日は読書活動を行い、火・水・木曜日は「チャレンジタイム」として、通常は「百マス計算」を3～6年生で実施した。また、月2～3回「ぐんぐんタイム」と称して、レディネステストを参考にした保護者・児童の選択による個に応じた補充的学習指導を実施した。これは、算数科での各学年の学習内容を小プリントで復習できるようにしたもので、学年をさかのぼって苦手な内容を克服し、小学校で身に付けるべき学習内容を確実に習得させる手立てとなっている。



少人数指導による「ぐんぐんタイム」

② 家庭学習の成果を可視化する「博士テスト」の実施

家庭学習の推進を図ること及び、学習内容の定着を確認し必要があれば補充することを目的として、学期ごとに1～2回の「博士テスト」を計算、漢字において実施している。テスト範囲は家庭学習を中心に実施している「ドリル」から範囲を定め、出題している。実施したテストは、採点し満点が取れるまで繰り返しテストを行っている。また、その結果を家庭に連絡するとともに、合格した児童にはシールを与えるなどして賞賛している。

③ 高学年を中心とした一部教科担任制の実施

主に5・6年生を中心に教科担任制による授業を実施することにより、中学進学時の生活面や学習面での変化を少なくし、いわゆる中一ギャップの解消の一助とするとともに、教師の専門性を生かした授業を行うことにより、児童の興味・関心を喚起するなど、学力向上の一方策としている。本年度は5・6年理科及び2～6年音楽で実施した。



学び合いを重視した音楽専科による授業

(2) 小中一貫を意識した生活習慣の確立を目指して

① あいさつ運動の実施

相手としっかり目を合わせ、自分からあいさつすることに慣れ、自然にできるよう学級ごとの輪番制で「朝のあいさつ運動強化月間」が2, 3学期に実施されている。担任教諭が中心となり、登校してきた順に昇降口前に集まり大きな声であいさつをすることができている。また、自分からさわやかなあいさつができる児童が増えてきている。

② 黙働の励行

10月第2週より1ヶ月間、黙働強化週間として、学級ごとに黙働達成のセルフチェックを行い、よくできた学級にはシール等を与え賞賛した。

③ 廊下の歩行

1階職員室前廊下の歩行指導を中心に、移動時の歩行の仕方の習慣化と静かに落ち着いて移動することができるよう意識付けを行っている。俳句調の標語を廊下中央に設置しており、児童も興味を示しながら静かに歩行することができるように工夫している。



(3) 小中連携交流活動

	<p>平成25年7月22日（月）～26日（金）「4・5年生学びの広場」 県学力向上プランの一環である「学びの広場」において、守谷中学校から学習ボランティアを募り、4・5年生の各教室に「先生」として、採点を中心とした活動をお願いした。5日間にわたって、中学2、3年生が大勢参加した。勉強を見てもらった4・5年児童は、「中学生が分かりやすく教えてくれた。」など、中学生が来てくれたことをとても喜んでいた。</p>
	<p>平成25年10月22日（火）5・6校時「守谷中出前授業」 「中1ギャップ」の現象を少しでも解消できるように、6年生を対象に中学校の先生に來校してもらい、中学校で行っている雰囲気です授業を実施する「出前授業」を行った。 今年度は、守谷中学校から音楽担当の内田有一先生に来ていただいた。小学校の授業とは少し違った雰囲気の中、児童は緊張しながらも楽しく授業を受けることができていた。</p>
	<p>平成25年10月31日（木）、11月1日（金）「小中合同あいさつ運動」 毎年、この時期に行っているあいさつ運動を、守谷中と合同で実施した。朝早くから中学生が黒内小に來校した。本校からは運営委員会の6年生児童が参加した。声をかけられた小学生は、はじめ少し戸惑い気味だったが、次第に元気よくあいさつを返すことができるようになってきた。このような活動をきっかけに、町の中で子どもたちがあいさつを交わす地域づくりを進めていきたいと考える。</p>
	<p>平成25年11月9日（土）「黒内まつり 守谷中美術部ワークショップ」 黒内まつり体験活動において、守谷中美術部の協力の下「ものづくりワークショップ」を実施した。中学生が講師となり小グループに分かれ、小さなお菓子の模型をつくる活動を行った。中学生は学んだことを伝える楽しさと難しさを、小学生は中学生が部活動でどんな活動をしているか、どれだけたくましく頼りになる存在であるかをそれぞれ実感できる場として、大変有効な取組になっている。</p>
	<p>平成25年11月15日（金） 中学1年生母校訪問 中学生との交流をさらに広げるため、今年度より中学1年生の母校訪問を実施するようになった。小学校在籍時も最高学年として、下学年の面倒をよく見ることができていたが、中学生となり半年がたち、さらに落ち着きとたくましさを感じている様子が窺えた。今回は、5校時に1年生音楽のアシスタントティーチャーとして、6校時には6年生と中学校生活についての意見交換等を実施した。</p>

(4) 保育園・幼稚園接続期への対応（保幼小連携交流活動）

<p>平成25年11月9日（土）「黒内まつり」 体験活動において新入学予定者を招待して、本校児童同様、専用の体験ブースを用意し、科学実験体験を実施した。</p>	
<p>平成26年2月28日（金）1年生活科「なかよくする会」 1年の生活科の学習内容を近隣の保育所の幼児に発表する会を例年実施し、保育園生の交流を図り、「小一プロブレム」解消の一助としている。</p>	<p>黒内まつり新入児コーナー 1年「なかよくする会」</p>

3 成果と課題

- 今までのふれ合いを重視した保幼小中連携の交流活動から、各学校間の接続を意識した交流活動へと内容が変化してきている。これにより、教師側の保幼小中一貫教育の意識が向上してきたと考えられる。
- 日常の学校生活や学習活動が、中学校や高等学校への基礎になっていることをさらに意識し、新しい時代をたくましく生き抜く人づくりを目指すとともに、義務教育における1/9を大切に積み上げられる授業や生活指導を模索し実行していきたいと考える。

保幼小中高一貫教育の実践

守谷市立御所ヶ丘小学校 担当 殿岡 秀一

1 はじめに

本年度より市の方針により，保幼小中高一貫教育がスタートした。これまでの連携教育をよりいっそう深め緊密化し，かつ園児，児童，生徒の上級学校への移行の円滑化をめざすことで，小1プロブレムや中1ギャップを狭めることをねらいとしている。さらには，学力向上を最終目標として取り組みをスタートさせた。本校は，御所ヶ丘中学校区として特別活動を中心としたこれまでの交流活動を各部会を中心に，効率化や継続性の観点で見直しや改善を図りながら計画的に取り組んできた。

2 実践

(1) 小中合同あいさつ運動

11月6日，御所ヶ丘中学校の生徒会及び2年生を中心とした生徒が小学校でのあいさつ運動に参加。11月のいばらき教育月間の「マナーアップキャンペーン」の一環として実施。当日は1年生の担当で，大きいお姉さん・お兄さんと一緒に，登校する児童に向かって大きな声であいさすことができた。登校してきた児童達もはじめは少し驚いた様子も見られたがはつきりとあいさつを返すことができた。より多くの人たちであいさつをかわしている場が設定されたことは，効果的であった。

その後毎月はじめのあいさつ運動では，児童の登校する門以外にも中学生の登校する信号付近にも場所を増やして実施している。中学生と小学生が交わっている姿や一般の人にもあいさつする機会が増えたことで，地域への広がりも期待できるようになった。



(2) 母校訪問

11月20日に御所ヶ丘小学校へ，本校卒業生である御所ヶ丘中1年生が母校を訪問して小学生の学習補助したり自分たちの学習成果を6年生に公開する活動が行われた。

5時間目は，1年生の体育

の授業（なわとび）と2年生の算数（九九）の授業に学習支援する活動を行った。中学生がとても丁寧に小学生に寄りそって接してくれ，暖かい雰囲気の中で楽しく意欲的に活動できた。



6時間目は，6年生に対して中学生が，総合的な学習の時間に行ったキャリア教育の内容について発表会を行った。卒業生のお話を聞いたり，質問したりすることにより小学生にとっては，大変有意義な時間となった。また，昨年まで共に生活していた中学生との交流で中学校生活をより身近なものに感じるとともに，もうすぐ自分たちも中学生になってこういった活動を行うんだといった見通しをもつことができた。



(3) 幼小連携交流学習会

11月29日に隣接した二三ヶ丘幼稚園年長組を迎えて1年生による交流学習会が実施された。生活科の授業として、もうすぐ1年生になる幼稚園生に小学校の学習を体験してもらった。園児には、進学への期待をもってもらうこと、本校児童には、お兄さんお姉さんの立場として会を準備運営した。お店屋さんを開いたり、ゲームコーナーを作ったりと楽しく参加してもらうための創意工夫がたくさんみられた。



(4) 毎月1回の小中一貫教育中学校部会の開催

インクルーシブの事例県研究をはじめ学習や生活のきまり等について協議を重ねてきた。この会を通して、お互いの学校職員が親しくなり、以前にも増して緊密な情報交換や一貫教育に関する取り組みについて共通認識をもつことができた。現状の反省や今後の取り組みについて貴重な意見交流ができた。

(5) 中学校新生生保護者説明会 1月31日 御所ヶ丘中学校

6年生と担任、保護者が一緒に参加して行われた。体育館での説明後に、部活動見学が行われた。部活動を直接見て説明を聞き、体験をし、中学校生活に興味をもつことができた。

(6) 出前授業 2月12日 【英語授業体験】 御所ヶ丘中学校

御所ヶ丘中学校の英語担当教諭が本校に来校して、6年生の1・2組にそれぞれ1時間ずつ、英語辞書を使いながらトピック的な授業を展開してくれた。子ども達は、小学校とは違った雰囲気を経験しながら参加できたので、これから中学生になる6年の児童にとっては、貴重な体験となった。



(7) 教員相互による授業参観

小学校の計画訪問に際し、御所ヶ丘中学校の先生方が小学校の授業を、また中学校の計画訪問に際し、本校職員が御所ヶ丘中の授業を参観した。さらに、若手教員研修の一環として御所ヶ丘中学校の2年生理科の授業を参観させていただき実りある研修が実践できた。教師による指示を徹底させるための意図的指名や中学生の考察のまとめる能力など、中学校ならではの貴重な場面を参観できた。



3 成果と課題

各取り組みの実施にあたっては、早い段階での計画を立てたので、短い準備期間で効率よく進めることができた。各部会のコーディネーターを中心に立案され、小・中の時程差もうまく調整することができた。新しい取り組みとしては、隣接立地を生かした小中合同あいさつ運動や、児童の移動のないことで安全面に配慮された出前授業などが非常に有効であった。児童の進学に際してのギャップの軽減としては、今後も継続していきたい活動であった。

次年度は、市で作成された家庭学習の手引きの使い方やその効果についての検証を行い、中学校区3小学校の連携を進め、中学1年生での学習習慣形成を図っていききたい。また、教科連携の面では全教科の中で重点を決めて小中共同の教科研修なども、指導の充実を図る上では必要になってくるであろう。まだまだ試行錯誤の部分もあるが一貫教育推進委員会の方針に沿って、全職員協力した取り組みを進めていきたい。

保幼小中高一貫教育の実践

守谷市立郷州小学校 担当 長沼 淑人

1 はじめに

子どもたちに確かな学力と豊かな心をはぐくむためには、各校種という単位で捉えるのではなく、幼児期からの子どもたちの発達段階に応じた、きめ細かな系統性と継続性のある学習指導と生徒指導に取り組むことが求められている。これまでも、幼稚園から小学校、小学校から中学校の接続期においては、「小1プロブレム」(授業中に座ってられない、集団行動がとれない児童が増加する現象)や「中1ギャップ」(学習や生活の変化になじめずに不登校やいじめが増加する現象)問題が指摘されている。

そこで、各校種間にある段差を適切なものとし、それを乗り越えるために、本校では、「みずき野幼稚園」「愛宕中学校」との交流活動を通して、保幼小中間の接続の円滑化を図っている。

2 保幼小中高一貫教育の実践

(1) 愛宕中学校との実践

活 動 名	実施日・場所	活 動 内 容
愛宕中学校区 小中連絡会	6月 5日 愛宕中学校	・昨年度6年担任による授業参観 ・新入生の現況と情報交換
学びの広場	7月22日～ 26日 郷州小学校	・学びの広場(4～6年)での学習補助
吹奏楽部・金管バンド 合同練習会	8月23日 郷州小学校	・楽器ごとに分かれての練習及び合同演奏 ・吹奏楽部顧問からの指導
中学校区合同引渡訓練	9月 1日 各学校	・時間設定等の事前打合せ ・事後に引き取り状況等の情報交換
体育祭見学	9月14日 愛宕中学校	・児童応援団が応援合戦を見学
小中合同あいさつ運動	10月1・2日 郷州小学校	・昇降口付近でのあいさつ・声かけ
ふれあい演奏会	10月17日 郷州小学校	・吹奏楽部の生徒による演奏発表 ・小学生の演奏への参加(指揮)
中一母校訪問	11月15日 郷州小学校	・1～5学年全学級への中学生による学習支援 ・6年生への学校生活紹介+グループ懇談
愛宕中学校入学説明会 (授業参観・部活動見学)	1月29日 愛宕中学校	・生徒会役員の進行で学校紹介等の説明を聞く ・グループ毎の授業参観、施設見学、部活動見学
出前授業	3月14日 郷州小学校	・6年生が中学校職員による授業を体験

① 職員間での情報交換と交流

- ・愛宕中第1学年の授業参観を行った後、守谷小、郷州小の旧6学年関係職員と愛宕中1学年職員による情報交換を行った。
- ・夏休み期間中に、郷州小・愛宕中の全職員で情報交換を行った。
- ・互いの学校の「教育委員会による訪問指導」の際に、職員を派遣し合い、授業の様子を参観した。
- ・愛宕中3学年担当職員に、6年生に対して出前授業を行う予定。

② 児童・生徒の交流活動

ア 金管バンドと愛宕中学校吹奏楽部との合同練習会

本校の5・6年生の希望児童からなる金管バンド部では、例年、夏休みに愛宕中学校吹奏楽部を招き指導を受けている。本年度も8月23日に合同練習会を実施した。各パートごとに分かれて、中学生から直接指導を受けたり、模範演奏を聴かせてもらったりした。

児童にとっては、1対1でじっくり教えてもらえるよい機会となった。



イ 愛宕中学校吹奏楽部との交流（ふれあい演奏会）

本校体育館において、全校児童を対象に愛宕中学校吹奏楽部の演奏会が行われた。「あまちゃん」のオープニングテーマをはじめとした耳慣れた曲目に、多くの児童が身体を動かしながら音楽を楽しんだ。また、金管バンドに所属する高学年児童は、中学生の素晴らしい演奏に聞き入っていた。途中、児童が指揮者として参加できるコーナーなどがあり、楽しい時間を過ごすことができた。

ウ 愛宕中学校生徒の学びの広場への参加

愛宕中学校生が、夏休みの学びの広場に参加し、児童の質問に答えたり、進んで学習の補助に入ったりと熱心に取り組んでくれた。また、小学生も中学生へ積極的に質問をしながら学習をすすめていた。

エ 中一母校訪問

本校の卒業生が、各学年の授業に参加し学習支援を行った。児童は、かけ算九九の読み上げを聞いてもらったり、縄跳びの跳び方を教えてもらったり、アドバイスをもらいながら一緒に工作を楽しんだりと充実した時間を送ることができた。また、6年生はグループ懇談形式で、中学校生活について質問をしながら交流を深めていた。



オ 中学校入学説明会でのオリエンテーション、授業・部活動参観

「学校紹介・中学校生活について」のオリエンテーションや授業・部活動参観は中学生生活を知るよい機会となった。6年生にとっては、進学への不安が軽減され、中学校生活への期待感を深めることができた。

(2) みずき野幼稚園との交流活動及び保幼小連携

① 園児・児童との交流活動

ア ハロウィンの飾りづくり<10月23日>

昨年に引き続き、5年生がみずき野幼稚園を訪問しハロウィンに向けて教室の飾りづくりを園児とともにに行った。5年生は常に園児に声かけしながら活動に取り組んでいた。



イ ハロウィンパレード<10月30日>

毎年恒例の行事として、ハロウィンで仮装した園児たちが、本校の昼休みに、校舎前をパレードした。校門では飾りづくりで交流した5年生が園児を出迎え、一緒にパレードに加わった。

ウ 絵本の読み聞かせ<11月5日>

5年生が、ロング昼休みの時間を利用してみずき野幼稚園を訪問し、グループ毎に絵本の読み聞かせを行った。園児にも聞き取りやすく、そして理解しやすいように読み方などを工夫して実施することができた。



エ 学校見学<2月20日>

1年生が、写真を見せながら学校生活の様子や1年生の学習、学校行事についてわかりやすく説明したり、特別教室を中心に学校探検を行ったりする予定である。

② 保幼小連絡会の実施

2月下旬から3月上旬にかけて、保育園・幼稚園の先生方との連絡会を行い、来年度小学校に入学してくる子どもたちを迎え入れる体制を整えている。

3 課題

今後は、園児・児童・生徒だけの交流にとどまらず、職員同士の交流を図りながら、互いの学校教育の理解に努め、校種間の円滑な接続を図りながら、ともに児童生徒を育てていく意識をもち連携を深めていきたい。

保幼小中高一貫教育の推進

守谷市立松前台小学校 教諭 池田 恭

1 はじめに

社会の変化の中、様々な原因から「小1プロブレム」「中1ギャップ」といった現象が学校現場に起きている。上級学校に進学しても、目的もなく過ごし、自分の力を発揮できずにいる子どもがいる。

そういった現象等に歯止めをかけ、子どもたちが自分の力を発揮できるようにするためには、学校間の滑らかな接続を図り、より一層、自己実現ができる教育環境を作る必要がある。その試みとしての保幼小中高一貫教育は、とても重要であると感じている。

一貫教育を推進するため、御所ヶ丘中学校区部会での話し合いから、具体的な計画を立て実施してきた。本校では、その小小・小中の連携を中心に、保幼小の連携や小高の連携などの新しい取組を行った。本校児童の自己実現のために、よりよい保幼小中高一貫教育の在り方を探っているところである。

2 実践

(1) 保幼小の連携

① 保育園・幼稚園との交流 (H26.3 実施予定)

守谷保育園・幼稚園の年長児を本校に招待し、1年生との交流活動をしたり、学校内を案内したり、する予定である。

交流活動は、1年生の児童がこれまでの学習を生かすことができる内容で、園児たちに「絵本の読み聞かせ」「紙芝居の発表」を実施する。園児には、小学校の雰囲気を感じてもらおうようにし、滑らかな接続ができるようにしていきたいと考えている。

② 保育園・幼稚園と小学校の情報交換 (H26.3 実施予定)

一人一人の子どもの実態・保護者の願い・人間関係の他、アレルギー等の情報など、きめ細かく情報交換を行う予定である。保育園・幼稚園の園長先生の思いや願いについての話を聞く機会を設け、入学前の園児たちの情報を整理し、一人一人の園児がスムーズに学校生活が送れるような準備ができるようにしたいと考えている。

(2) 小小の連携

① 3校合同の田植え (H25.5.14)・稲刈り(H25.9.9)

「立沢里山を守る会」の方々の協力のもと、大井沢小、御所ヶ丘小、本校の5年生児童が、立沢里山の水田において春に田植え・秋に稲刈りを行った。田植えでは、泥に足を取られながら苗を植える作業を通して、米作りの大変さを感じることができた。また、稲刈りでは、豊かに実った稲を自分の手で刈る作業を通して、収穫の喜びを感じることができた。この体験は、3校の児童が御所ヶ丘中学校に進学した後も、貴重な「共通体験」として豊かな心を育む礎になると考える。

② 北守谷地区3小学校児童作品展 (H26.2.17~23)

北守谷公民館で行われた「第13回北守谷公民館地域ふれあいまつり」の作品展に参加した。5年生児童が立沢里山で体験した思いを作文にして展示した。児童にも展示期間等を知らせ、積極的に見学に行くように話した。3小学校で、同じ地域の一員であるという意識付けをさせるよい機会となった。



3校合同の田植え



3校合同の稲刈り



北守谷公民館での作品展

(3) 小中の連携

① 「学びの広場」に中学生が参加 (H25.7.)

夏休みに実施している「学びの広場」のミニティチャーとして、御所ヶ丘中学校の生徒を活用した。中学生は、自分たちが学んだ教室で、下学年の児童に算数を教えるということで、最初は緊張するところもあったが、徐々に、慣れてきて大いに活躍していた。本校児童は身近な先輩として気軽に質問することができた。中学生は自分の自己有用感を高める機会となった。

② 御所ヶ丘中学校教諭による出前授業 (H25.10.17)

6年1組は理科の授業・6年2組は技術・家庭の授業を実施した。中学校の学習に対する期待をふくらませることができる機会となった。児童の興味・関心を高める中学校の先生方の授業により、充実した時間となった。「中学校で勉強するのが楽しみになった。」という児童の感想からも、教育効果の高い交流になった。

③ 母校ボランティア (H25.11.20)

母校ボランティアに、御所ヶ丘中学校1年生と本校1・2・6年生が参加した。1年生は、体育の学習を、2年生は算数の学習を実施し、本校児童は意欲をもち、課題に取り組むことができた。6年生は総合的な学習の時間に「キャリア教育」で実施した。中学生との交流を通して、自分の将来について考える機会をもつことができた。

④ 小中合同のあいさつ運動 (H25.11.5~8)

「いばらき教育月間」に合わせて、小中合同のあいさつ運動を実施した。御所ヶ丘中学校2年生が朝の登校時間に合わせて、本校に来校し、本校児童と一緒に、地域の方や本校に登校してくる児童にあいさつをした。あいさつ運動の目的を明確にし、さらに進んで大きな声であいさつができるような取組にしていきたいと考える。

⑤ ふれあいまつりでの御所ヶ丘中吹奏楽部の演奏 (H25.11.9)

本校の文化的行事である「ふれあいまつり」で、御所ヶ丘中学校の吹奏楽部に演奏をしてもらった。ふれあいまつりでは、毎年、児童が練習してきた合奏・合唱の発表後に、より質の高い芸術や文化に触れるために、例年、そのようなプログラムを取り入れている。御所ヶ丘中学校の吹奏楽部の企画で、一緒に声を出したり、体を動かしたりして、児童の感性を豊かにしてくれる内容であった。



出前授業 (理科)



母校ボランティア (1年生)



ふれあいまつり 吹奏楽部演奏

(4) 小高の連携 (H26.2)

今年度からの新たな試みとして、守谷高校との交流を行った。中学校進学直前の6年生児童に、進路が決定した高校生の「中学校での生活の仕方」や「自分の夢を実現するために」についての話を聞く機会を設けた。大学進学を控えた高校生・就職の決定した高校生の話を聞くことで、将来に対する夢や目標に向かって努力することの大切さに気付くことができた。小高の1つの連携のかたちとして、効果ある取組だった。



高校生との交流

3 成果と課題

今年度の連携の行事が、保幼小中高一貫教育の「滑らかな接続」という目標に向かい、成果をあげていると感じる。特に6年生児童は、中学生との交流により、中学校進学への不安を軽減することができたと感じている。また、高校生との交流により、将来に向かっての夢や目標について考えることができた。今後は、さらに連携の行事を充実させたり、1~6年生の中で系統性をもたせたりすることが課題である。

保幼小中高一貫連携教育の実践

守谷市立松ヶ丘小学校 担当 皆川 彰

1 はじめに

本校では「豊かな心をもち、健康で自ら課題をみつけて学習し、たくましく生きる児童を育てる」の学校教育目標のもと、高野小学校、けやき台中学校と生徒指導面や学習面での情報を共有し合い、小中一貫の交流活動が進められてきている。今年度は小中一貫教育中学校区部会が定期的開催され活動がスムーズに行われた。そして、この交流活動を「継続的に」行うことで、児童・生徒に生きる力を育むと共に、確かな学力を身につけることを目標に進めている。

2 実践計画3 実践例

月 日	内 容	対象者・協力者
5月 2日	平成25年度小中一貫教育についての打合せ	けやき台中担当者
6, 11, 2月	あいさつ運動	けやき台中生徒会
5月10日 7月10日 9月11日 10月 9日 11月19日 12月11日 1月21日 2月12日	小中一貫教育中学校区部会	けやき台中, 高野小
10月17日	吹奏学部鑑賞会	けやき台中吹奏楽部
11月26日	母校ボランティア(各学年の学習支援)	けやき台中1年生
11月	部活動見学・体験活動	けやき台中担当者
10月中	出前授業(体育)	けやき台中担当者

(1) あいさつ運動

(けやき台中学校との交流)

本校正門 7時50分から8時10分
本校では、職員、5・6年生の代表委員、生活向上委員会の児童、1年～6年生の縦割りのクラスによるあいさつ運動を毎朝行っている。その中で、6月、11月、2月に「さわやかマナーキャンペーン」としてけやき台中学校の生徒会役員、本校児童、本校職員が中心になってあいさつ運動を行った。



中学生とのあいさつ運動

(2) 吹奏楽部演奏鑑賞会

けやき台中学校の吹奏楽部に学校に来校してもらい演奏を鑑賞した。全校児童が中学生の演奏を聴くことができ、身近な先輩にあこがれを抱く機会となった。また、中学生の演奏に合わせて小学生が合唱したりする活動を行うことができ、有意義な交流をすることができた。



けやき台中吹奏楽部演奏

(3) 母校ボランティア

本校を卒業した、けやき台中学校1年生が来校して、本校1年生から6年生の各クラスに学習ボランティアとして入り、算数の計算の丸付け、体育での跳び箱の補助等を行ってくれた。また、ボランティアの後に、6年生が昨年卒業した中学1年生から実際の中学校の様子を聞いたり、質問をしたりすることで中学校をより身近に感じることができた。



中学生と学習での交流(学習支援)

(4) けやき台中学校教諭による 乗り入れ授業(体育科)

けやき台中学校の体育科の先生により、本校1年生から6年生を対象に体育の乗り入れ授業を実施した。専門性のある指導でポイントを分かりやすく教えていただいた。子どもは最初は緊張していたが、授業に慣れてくると表情も和らぎ集中して授業に参加することができた。教師も児童も学びの多い機会となった。



乗り入れ授業(体育科)

4 成果と課題

(1) 成果

- あいさつ運動では中学生と一緒にやる活動が定着してきた。そのため児童が中学生と活動することに抵抗感がなくなってきた。また、そのことで地域の方々にも積極的にあいさつをしていこうとする意欲付けにもなっている。
- 吹奏楽部の演奏鑑賞会では、今年度は時間に余裕をもって取り組むことができ、有意義な時間となった。また、中学生の演奏に合わせての合唱などがあり、よい交流になった。
- 母校ボランティアでの交流活動では、1年生から6年生まで中学生に学習支援をしてもらった。特に低学年は久しぶりに会うお兄さん、お姉さんに教えてもらい大変うれしかったようである。中学生にとっては自己有用感を実感し、小学生にとっては身近な先輩にあこがれをもつ機会になった。
- けやき台中学校教諭による乗り入れ授業(体育科)では、昨年度に引き続き行った。どの学年でも専門的な指導していただき、跳び箱の跳び方の技能を身につけることができた。
- 交流活動全体を通して学ぶ意欲、豊かな心を育てることができた。さらに目的を明確にした交流活動を推進していった。

(2) 課題

- 今年度から保幼小中高一貫教育が進められ、来年度からは家庭学習の手引きや学びのプラン等も市で統一される。けやき台中学校校区で9年間を見通した指導を進めていき、乗り入れ授業では他の教科でも推進していきたい。
- 今年度から保幼小中高一貫教育のホームページも開設したので、さらに充実させ保護者や地域の方々への情報発信を今まで以上に進めていきながら、地域に開かれた学校づくりをより一層進めていきたい。

保幼小中高一貫教育の実践

守谷市立守谷中学校 担当 巻野 正

1 はじめに

「確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくみ 将来の夢に向かって努力できる児童生徒の育成」をねらいとして、本市の「きらめきプロジェクト」が立ち上がった。本年度は平成26年度の実施を前に、様々な部会を立ち上げ、準備をするとともに、実践ができるものは着手していった。夏季休業中に開催された「一貫教育に関する研修会」においては、「9年間を見通す意識改革」が強調され、小中間のつながりをさらに深めていくことと同時に、我々教員の意識を高めていくことの必要性を実感した。

守谷中学校区では小中交流活動において、「個性を伸ばし、豊かな人間性のある児童生徒の育成」を目指して活動を展開した。小学生と中学生が一緒に行うあいさつ運動等の交流活動を通して豊かな人間性の育成を図るとともに、中学生の母校訪問、小学校6年生の入学説明会等の交流活動から、小学生は中学校への親近感と期待感を膨らませ、夢と希望をもった進学が果たせるようにし、中学生は、小学生とのふれあいの中で、上級生である自覚を深め、自尊感情を高めてよりよい生活が送れるようにすることを達成できるように実践を行ってきた。以下に本年度の活動を紹介したい。

2 実践

活動名	小学校「学びの広場」協力
活動期日	平成25年7月22日（月）～26日（金）
参加者	守谷中学校第2・3学年学習ボランティア 延べ83名 大野小学校第4・5学年児童、黒内小学校第4・5学年児童、 守谷小学校第3・4・5学年児童
活動内容	・茨城県作成の算数学習教材を用いて学習する小学校「学びの広場」へ 中学生が学習アシスタントボランティアとして、丸付けや個別支援の 補助を行った。

活動名	出前授業
活動期日	平成25年10月22日（火）、10月29日（火）
参加者	内田 有一教諭（音楽科） 巻野 正 教諭（数学科）
活動内容	<10月22日> 黒内小学校 第6学年児童を対象に音楽の出前授業を行った。「同声 3部合唱 星の世界」「リコーダーによる創作」を行った。児童は音楽 専門の教諭による授業に引き込まれ、しっかりと声を出すことができて いた。 <10月29日> 大野小学校 第6学年児童を対象に数学の出前授業を行った。「1次 方程式」を使った「数当てゲーム」を行った。実際に中学1年の学習内 容をゲーム感覚で行い、中学の数学学習へ興味をいだいてもらうことが できていた。

活動名	中学1年生母校訪問
活動期日	平成25年11月15日（金）
参加者	守谷中学校第1学年生徒118名、大野小学校第2学年・第6学年児童、 黒内小学校第1学年・第6学年児童、守谷小学校全学年児童
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第6学年児童については、グループ単位で中 学校の学習の様子や生活の様子などを中学生 より説明を受け、質疑を行った。 ・大野小学校第2学年児童には「かけ算九九」 の学習補助を行い、聞き役となったり丸付け を行った。 ・黒内小学校の第1学年児童には「鍵盤ハーモ ニカ」の学習補助を行い、個別指導を行った。 ・守谷小学校においては、第1学年「生活科学習補助」、第2学年 「算数科学習補助」、第3学年「算数科学習補助」、第4学年「音楽科 ・算数科学習補助」、第5学年「理科・社会科学習補助」を行った。



活動名	あいさつ運動	
活動期日	小中合同：平成25年10月29日（水）～11月1日（金） 中学校4校合同：平成25年11月13日（木）	
参加者	小中合同：中学生 希望者 延べ43名 中学校4校合同： 中学生116名（本校生徒59名）	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の登校時刻に合わせて、中学生が正門前に立ちあいさつ運動を展開した。基本的に出身校に出向いて行うようにした。最初は中学生のしっかりとしたあいさつにとまどう小学生も見られたが、後半はしっかりとあいさつを返してくれていた。 13日は中学校4校が合同であいさつ運動を展開した。116名の生徒たちが守谷駅前に立ち、地域の方へのあいさつ運動を行った。市民より教育委員会へお褒めのメールもいただき、生徒たちにとっては大きな励みとなった。 	

活動名	文化部交流	
活動期日	平成25年11月2日（日） 11月9日（日）	
参加者	本校 吹奏楽部員 11月2日（日） 本校 美術部員 11月9日（日）	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 11月2日は、大野小学校の収穫祭に本校吹奏楽部が参加し、演奏を披露した 11月9日は、黒内小学校における黒内祭りに本校美術部がワークショップを展開し、児童との交流活動を展開した。 	

活動名	新入生説明会	
活動期日	平成26年1月28日（水）	
参加者	本校生徒会役員、 各部活動生徒、 3年3組生徒	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 出迎えは本年度松風祭でグランプリを獲得した、3年3組の合唱を披露し、中学生の歌声を実感してもらった。その後、部活動見学の後に生徒会より学校紹介を英語で行った。簡単な英語であるが小学生にとっては数年後の自分と重ねて見ているようであった。質疑では小学生も担任の先生の指導のもと、英語で質問してくれた。もちろん中学生も英語で答えていた。英語科の教員が準備していたがすべて自力で行えた。説明会后、他県より転入予定の保護者から「守谷の英語教育の水準の高さに驚いた。」との感想をいただくほどであった。 	

3 成果と課題

本年度の交流活動は、3点の成果が上げられる。第1点は、小学6年生との交流活動を行ったことで、中学進学についての不安感を減らし、中1ギャップの解消に役立てられたことである。英語活動や合唱を見ることで、中学生はすごいという期待感を膨らませ、夢をもたせることができた。

第2点は、学習支援やボランティアを行うことで、学力向上に貢献できたことである。それとともに、小学生の一生懸命さから中学生も学ぶところがあると同時に、地域の交流のきっかけとなる活動にもなったことである。

第3点は、中学生の自尊感情の向上である。ボランティアに応募するという「自主的な活動」、活動の際にかけられる励ましやお礼などから得られる「達成感」から、大きな満足感に繋がり、「やって良かったな」という満足した表情で帰ることが多々あった。さらに、上級生であるという自覚とともに自信をもつことができた活動であった。

課題としては、活動中にさらに生徒の主体性を反映させて、より中身の濃い交流活動にしていくことが必要であると考えられる。

保幼小中高一貫教育の実践

守谷市立愛宕中学校 担当 中村 進一

1 はじめに

いわゆる「中1ギャップ」の問題から、小中連携（一貫）教育の必要性が叫ばれて久しい。本校でも、昨年まで、守谷小学校・郷州小学校の協力をいただきながら、様々な側面で連携に努めてきた。その結果、中1で不登校・不適應を起こす生徒の減少やその状況の軽減化に効果をあげている。本年度からは、「守谷市きらめきプロジェクト」によって、「連携」教育を一步進め、「一貫」教育として実践する環境が整えられた。それにより、昨年までの実践にない教育活動や、新たに工夫した実践を行うことができた。

2 本年度の主な実践と考察

(1) 小学校「学びの広場」学習支援ボランティア 7月22日（月）～26日（金）

本校2・3年生の有志、延べ30名が、学習ボランティアとして守谷小・郷州小の「学びの広場」に参加した。生徒達は丸付けの補助や個別指導などの役割を熱心に行い、小学校の先生方からも評価していただいた。参加生徒からは、「やりがいがあった」「楽しかった」等の感想が聞かれた。

(2) 学校行事（体育祭・文化祭）への招待状の送付 9月14日（土）・10月26日（土）

守谷小・郷州小の児童に体育祭・文化祭の招待状を送り、来観を促した。特に体育祭においては、郷州小学校の運動会応援団に所属する児童が教師引率により来校し、本校の応援合戦を興味深く参観した。また、文化祭では小学生が遠慮なく参観できるよう、小学生席を設けて対応した。どちらの行事でも、両校から来校した小学生には簡単な感想を書いてもらった。小学生の感想をまとめ、各教室に掲示することで、本校生徒も達成感を新たにした。掲示物は小学校にも掲示してもらった。

(3) 合同で行うあいさつ運動

ア 小中合同あいさつ運動 10月1日（火）・2日（水）

本校生徒会役員並びに生活委員会生徒、延べ30名が、守谷小・郷州小へ出向き、小学生と共にあいさつ運動を行った。あいにくの天候であったが、生徒達は熱心に活動を行った。

イ 四中合同あいさつ運動 11月13日（木）

県民の日の守谷駅でのあいさつ運動に、本校からは40名ほどの生徒が参加した。生徒会本部や部活だけでなく、3年生を含め、自ら進んで参加した生徒が多かった。寒さの厳しい日であったが、大きな声であいさつをする生徒の姿に、足を止めてねぎらいの言葉をかけて下さる方もおり、生徒の自己有用感を高める活動となった。また、他中学の生徒と互いに声をかけあい活動する姿も見られた。



(4) 吹奏楽部による交流活動

ア 郷州小学校金管クラブとの合同練習会 8月22日（木）

毎年恒例となっている合同練習会を、郷州小学校で開催した。本校吹奏楽部の生徒が、小学生に対して技術指導・合奏指導を行い、交流を深めた。中学生からは、「教えることは難しかった」「小学生が一生懸命練習してくれたことがうれしかった」等の感想が聞かれ、自分たちの練習を振り返る機会ともなった。



イ 小学校での演奏会の開催 郷州小：10月16日（木）、 守谷小：10月17日（金）

本校吹奏楽部が、県南総体の短縮授業を利用して守谷小・郷州小を訪問しミニコンサートを行った。演奏のみならず、楽器紹介や小学生指揮者コーナーなど楽しめる企画も用意したことで、小学生にも好評を得る



ことができた。また、本校部員も後輩の前で演奏を披露することが誇らしげで、小学生も中学生も笑顔で一杯のコンサートとなった。

(5) 母校訪問 11月15日(金)

本校1年生が、出身の守谷小・郷州小を訪問した。5校時は、1～5年生の授業に入って小学生の勉強の手助けをし、6校時は6年生を対象に、中学校生活について説明した。特に、中学校生活の説明には、生徒が国語科の授業で作成した「愛宕中ガイドブック」を用いることで、全ての生徒が分担して説明を行うことができた。小学生の中学校入学に対する不安の解消と、本校生徒の自己有用感の高揚につながった。



(6) 新入生・保護者説明会 1月28日(火)

本校において、来年度の本校入学予定者の新入生と保護者を対象に説明会を実施した。守谷小・郷州小の6年生は、各担任の引率で来校し、説明会に参加した。



生徒会役員と学級委員が、保護者・小学生を対象に、中学校の学習や生活・行事等について紹介をしたり、1・2年生の授業参観の案内をした。担当の生徒たちは、「どうしたら愛宕中のことをよく理解してもらえるだろう」と考えて、プレゼンテーションのリハーサルを重ね、実物の準備や役割分担の工夫等を行っていた。当日の発表も堂々としており、児童も保護者も生徒の発表に聞き入っていた。また、児童への説明後の質疑応答も活発だった。

このように、説明会において生徒が活躍することからは次のような効果が考えられる。本校生徒にとっては、公式の場での活躍から、自信を持ったり自己有用感を向上させたりすることができる。新入生保護者・小学生にとっては、本校生徒の姿を直接見て話を聞くことで、中学校への安心感を持つことができる。また今回小学生からは、「母校訪問で聞いた話が、今日の説明や見学でよく分かった。」という感想も聞かれた。ここからは、この1年間で一貫教育に関する様々な取組を進めてきた成果が実りつつあると解釈できよう。

(7) 出前授業 3月14日(金) 予定

本校教員が、小学校6年生を対象として授業を行うことで、中学校の学習の一端に触れ、入学後の学習への意欲を高める目的で実施予定である。

(8) 学区内の「まつやま保育園」との連携について

ア 夏祭りボランティア 7月13日(土)

保育園夏祭りのスタッフボランティアに、3年生有志生徒21名が参加した。参加生徒は昨年度より8名増えた。生徒は、事前に手作りのおもちゃを製作し、当日も積極的に保育園児と交流することで、達成感を味わうことができた。



イ 幼児ふれあい体験 11月5日(火), 19日(火), 21日(木)

本校3年生が幼児ふれあい体験学習を行った。家庭科における保育学習の一環で、全員が手作りのおもちゃの準備をし、体験学習に臨んだ。どの生徒も笑顔で園児に接し、また、節度を持ちつつも園児と共に夢中で遊んでいる姿が印象的であった。生徒は、園児の何事にも興味を持つ姿に感心したり、慕ってくる園児の様子に感激したりしていた。



3 今後の展望

今年度は、一貫教育への試行ということで、特に小学校との交流について充実させることができた。その中で、児童生徒の活躍の場が広がり、学び合う中で良好な関係が築かれつつある。来年度は本市独自の「学びのプラン」「家庭学習の手引き」の発行が予定されている。交流活動に加え、普段の学習指導・生活指導の面も一貫教育の視点で捉え直し、義務教育9年間の1年分を積み重ねることで、一人一人の生徒の確かな成長につなげたいと考える。

小中一貫教育の実践

守谷市立御所ヶ丘中学校 担当 竹久 武志

1 はじめに

本年度は、来年度からの守谷市保幼小中高一貫教育完全実施に向けて、準備を進めてきた。本御所ヶ丘中学校区ではテーマを「9年間の連続した学びを通して、未来に向かって生きる児童生徒の育成」と設定し、4小中学校の協力体制のもと、様々な交流活動を実践してきた。御所ヶ丘中学校区の特徴は、インクルーシブ教育システムの構築にある。すべての児童生徒に対して一人一人の教育的ニーズにあった支援を全教育活動の中で行っていくというものである。この考え方は、本校校長の「すべての子どもたちが特別な存在」であり、「人は支えられてこそ人となる」ことがきる、だから「みんなが資源（となり）みんなで支援（していこう）」という教育理念とも合致する。人とのかわり合いを大切にして、個性や成長を認め合い、支え合う支持的風土の醸成という視点に立って、小中の交流活動を進めている。

2 実践

(1) インクルーシブ教育システム構築事業

御所ヶ丘中学校区4小中学校では、インクルーシブ教育システム構築推進会議および事例検討会を毎月開催し、すべての児童生徒に対して一人一人の教育的ニーズにあった支援を提供するため、実践を通して合理的配慮の有用性を検証してきた。また、個別の教育的ニーズに対応した授業は、すべての生徒に有効であるという考えのもと、授業のユニバーサルデザイン化を図り、すべての生徒に分かる授業を目標として実践している。生徒一人一人の基礎的・基本的な知識・技能の定着度が高まってきているとともに、教師の授業力の向上にもつながっている。



(2) 出前授業

10月17日の県南新人大会の午後、大井沢小学校6学年3クラス、松前台小学校6学年2クラス、2月12日には御所ヶ丘小学校6学年2クラスで実施した。小学生に中学校の授業を体験させ、中1ギャップ解消の一助とすることがねらいであるので、多様な教科（理科・英語・社会・技術）で実施した。体験的な活動や知識のギャップを活用した授業を試みたので、授業後の感想には、「楽しい授業でした。」「中学校の勉強が楽しみです。」という前向きな記述がされていた。



(3) 「学びの広場」での学習ボランティア

7月22日から7月29日にかけて、大井沢、松前台、御所ヶ丘の各小学校で実施した。部活動、職場体験学習、三者面談等の合間をぬって、のべ114人の中学生が参加した。生徒たちは、母校の後輩を応援したい、学習の手伝いがしたい、教えるということ

体験したい等、各自が目的をもって、熱心に活動していた。小学生も中学生に対するあこがれの気持ちを強く抱いていたということであった。参加した生徒たちは、自分なりの目的をもって参加していたため、貴重な経験ができたことをうれしく思うと感想を述べている。中学生が自信をもち、小学生と自然に交流できるよい機会になった。



(4) 小中合同あいさつ運動

11月5日・8日の2日間、登校時に2学年生徒175人が出身小学校で小学生とともにあいさつ運動を実施した。積極的に大きな声であいさつをする2学年生徒の声に、小学生も「おはよう」とかえす、ほほえましい光景が見られた。あいさつを通して、児童生徒同士はもちろんのこと、地域社会とも積極的にかかわることのできるコミュニケーション力を育てていきたい。御所ヶ丘小学校とは、活動の日常化をねらい、月初めの月曜日の朝に合同であいさつ運動を開始した。



(5) 母校訪問

11月20日、1学年生徒211人が出身小学校で、低学年児童への算数や体育の学習ボランティアや6学年児童へのキャリア教育の発表（職場取材活動の発表）、中学校生活



の紹介等の活動を実施した。中学校生活に対する見通しをもたせる小学校側のねらいと、自分の成長（小中のつながり）を確認させる中学校側のねらいの双方を確実に達成させることができ、意義のある交流活動になった。

3 終わりに

御所ヶ丘中学校区では、他にも「吹奏楽部による小学校での演奏会」、「生徒会を主体とした中学校入学説明会」、「毎月の授業参観や情報交換などの生徒指導部の取組」等、4小中学校が協力して様々な交流をしてきた。中学生にとって小学生とのかかわりは成長の自覚と自信、周りの人に心を配る思いやりの心を育むことにつながっている。交流自体、意味のあることである。さらに発展させるためには御所ヶ丘中学校区の全教師が同じ目的に向かい、共同で研究を進めていくことが必要になってくる。9年間の義務教育を通して、児童生徒に周りの人に支えてもらう、周りの人を支える経験をたくさんさせ、人との関係性を大切にしながら未来に向かって生きる力を培っていくようにしたい。

保幼小中高一貫教育の実践＜小学生の部活動体験＞

守谷市立けやき台中学校 大越 茂

1 はじめに

けやき台中学校区では、児童生徒が小中学校9年間のつながりを意識して学校生活をおくれるようにするなかで、「夢に向かって自ら学び続ける、心豊かなたくましい児童生徒」の育成を目指している。

今年度、守谷市保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」のねらいに基づき、様々な児童生徒、職員の交流を実施した。新たな取組である「小学生の部活動体験」の実際と、そこから得られた成果と課題を以下に報告する。

2 実践

(1) 体験実施までの流れ

■ **小学校・中学校** 計画立案

- ・第5回（9月11日）、第6回（10月9日）中学校区部会において、11月10日（日）と11月30日（土）の2日で部活動体験を実施することを確認する。
- ・小学生の部活動体験中のけが等については、「日本スポーツ振興センター災害共済給付」が適用できる確認を学校教育課よりとる。

■ **小学校** 児童及び保護者への通知及び参加希望アンケート配付

＜アンケートの内容＞

- ・部活動体験の趣旨説明
- ・体験入部実施部活動
- ・実施日時及び場所 等

■ **小学校** 参加希望アンケートの回収及び参加児童名簿の作成

■ **中学校** 実施計画の作成及び職員への協力依頼

■ **中学校** 小学校へ体験に必要な持ち物、服装等の連絡

■ **中学校** 部活動顧問会議にて留意事項の確認

(2) 体験の日程

【午前の部】

時間	内容	役割分担
6:30	ホームページでの中止連絡（雨天時）	大越
8:00～ 8:15	欠席の電話連絡（職員室）	椎名
8:00～	駐車場 児童誘導（体育館玄関前）	体験実施の各部顧問 各部の副部長
8:10～ 8:30	児童整列（体育館） ※下足は、体育館下駄箱へ	各部の部長
8:30～ 8:45	日程説明・顧問紹介 ※終了後、各部の部長が各部の活動場所に児童を誘導する。	大越・大原
9:00～10:50	※児童生徒の自己紹介を必ず行ってください。 ※準備運動、整理運動を必ず行ってください。 ※各部の活動終了後、各部の部長は児童を体育館まで誘導する。	各部
10:50～11:00	体験の振り返り	大越・大原

(2) 体験の様子



<美術部>



<吹奏楽部>



<ソフトテニス部>

3 成果と課題

(1) 成果

体験後の小学生へのアンケート結果<回収数196（内訳 参加者106，不参加者90）>から、次のような児童の実態が分かった。

Q 1 あなたは何部の体験に参加しましたか？

Q 2 体験の内容はどうでしたか？

ア とてもよかった 93 イ よかった 32

ウ あまりよくなかった 4 エ よくなかった 2

※参加者数（106）と回答数の合計（131）の値が違うのは、複数の部活動を体験した児童がいるため。

Q 3 体験の時間はどうでしたか？

ア 長かった 3 イ ちょうどよかった 53

ウ 少し短かった 28 エ 短かった 22

Q 4 部活動体験をした感想を自由に書いてください。

「先輩たちが優しく教えてくれたのでよかった。」「きつい練習があったけれど楽しかった。」「今回体験した部に入部したい。」「先生がおもしろかった。」などの肯定的な感想ばかりであった。

Q 5 （参加しなかった人のみ回答）部活動体験に参加しなかった理由はなんですか？

ア 中学校で部活動に入る予定がないから 8

イ 塾や習い事と体験日が重なったから 31

ウ スポーツ少年団などの活動と体験日が重なったから 14

エ 家族での用事と体験日が重なったから 22

オ その他 15

- ・私立中学校，他の中学校へ進学するから 6
- ・申込用紙を提出するのを忘れた（紛失した，期限が過ぎた）から 5
- ・友達と遊ぶ約束があったから 1
- ・行きたかったが，中学校へ行くことにプレッシャーがあったから 1
- ・転校してきたばかりだから 1
- ・別の機会に体験する予定があるから 1

(2) 課題

小学生へのアンケート結果等から，来年度の実施に向けて次のようなことが課題として考えられる。

- ・Q 2～4の結果を基に，体験内容や体験時間の見直しが必要である。
- ・Q 5の結果から，年度当初より体験日を児童と保護者に周知しておく必要がある。
- ・小学校教員と中学校教員が協力して部活動体験を実施する体制を整える必要がある。
→けやき台中学校区では，来年度は県民の日（11月13日）に開催することを確認
- ・部活動体験を実施したことから，今年度は新入生説明会での部活動見学を実施しなかった。他の交流活動においても，ねらいと内容を検討する必要がある。